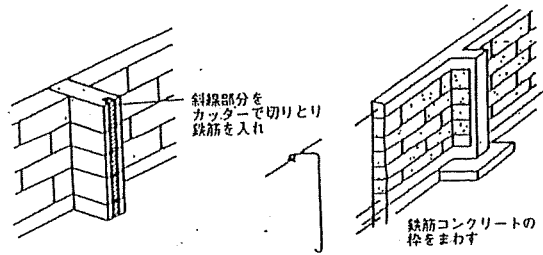


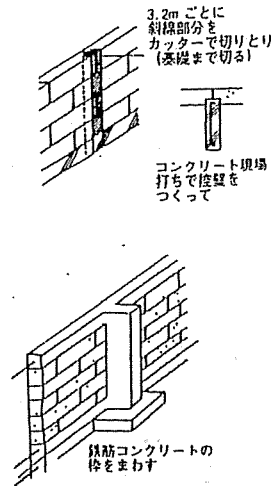
既設の石塀の補強方法

① 現場打ちコンクリートによる補強方法

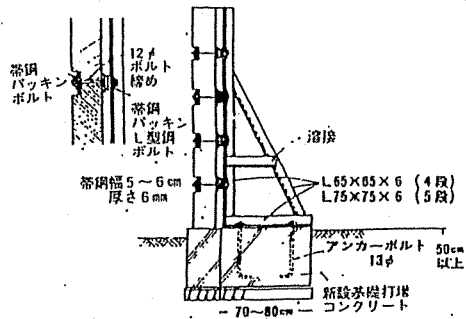
控壁がある場合



控壁がない場合



② 鋼材による補強方法

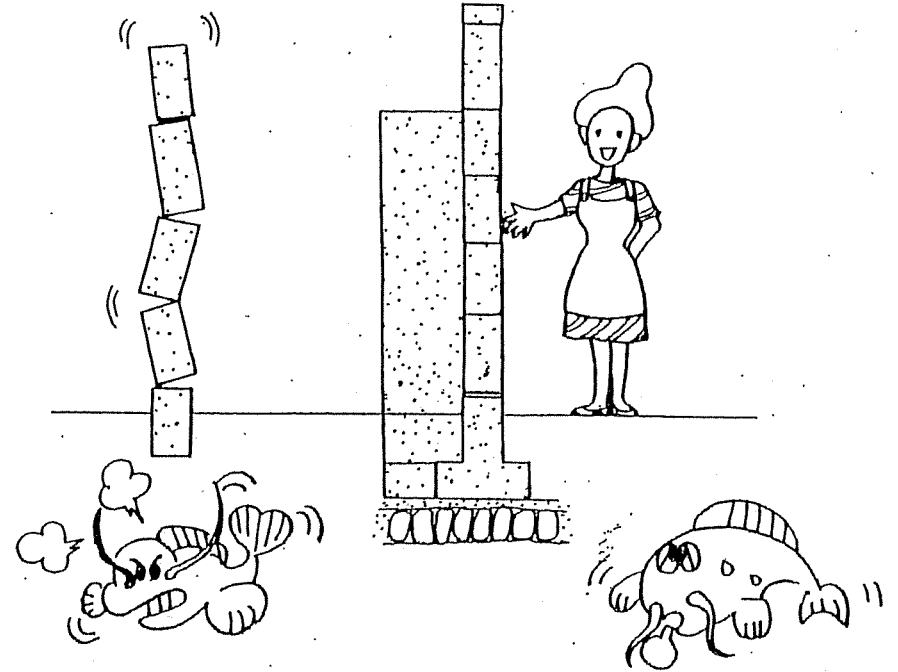


既設ブロック塀・石塀の補強については下記の相談窓口にご相談下さい。

柏市役所都市部建築指導課

TEL 04-7167-1145

ブロック塀・石塀の補強方法



既にあるブロック塀・石塀でも正しく工事がされていないと思われるものや、老朽化しているものは早目に専門家の点検を受け、必要な補強をしておけば安心です。

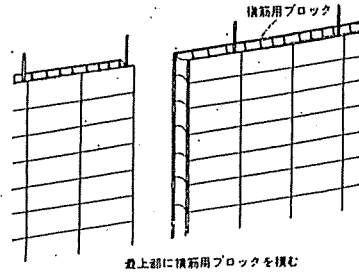
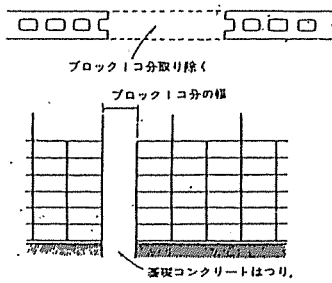
ブロック塀・石塀の補強方法の一例を示したので参考にして下さい。

既設のブロック塀の補強方法

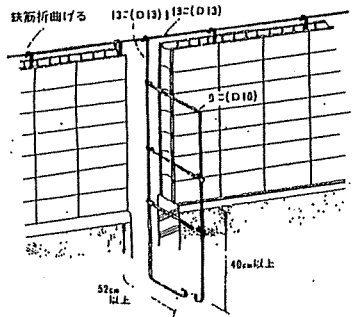
鉄筋コンクリート造控壁式補強方法

対象) 控壁がなく、壁頂の配筋や基礎の定着が不確実なもの。

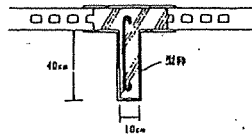
- ① 壁体頂部のブロックを、縦筋が35cm以上露出するまではずす。
- ② 控壁を新たに設けるため、3.2mおきにブロックを幅1コ分、頂部から下部まで取り除く。基礎部分もはつる。
- ③ 壁頂部に横筋用ブロックを積む。



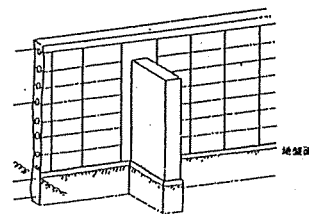
④ 控壁部分と壁頂部に配筋する。



⑤ 現場でコンクリートを打つ。



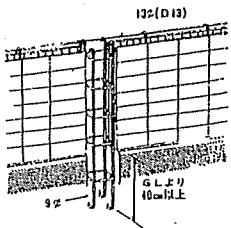
⑥ 控壁部分と壁頂部にコンクリートを打ってブロック壁体を額縁状の枠で固める。



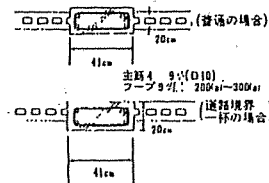
鉄筋コンクリート造柱型式補強方法

対象) 前記①の条件に加えて、塀と家屋との間が通路であり、控壁を設けると通行不能になるものなど。

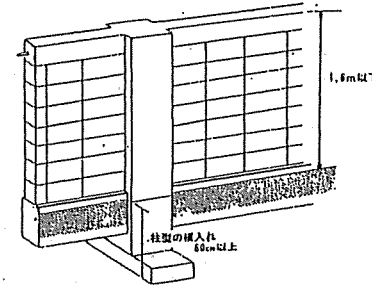
- ① 壁体の頂部のブロックを縦筋が35cm以上露出するまではずす。(①と同じ) 補強後の塀の高さは1.6m以下とする。
- ② 控壁を新たに設けるため、3.2mおきにブロックを幅1コ分、頂部から下部まで取り除く。基礎部分もはつる。(①と同じ)
- ③ 壁頂部に横筋用ブロックを積む。(①と同じ)
- ④ 控壁部分と塀の頂部に配筋する。



⑤ 現場でコンクリートを打つ。



⑥ 柱型部分と壁頂部にコンクリートを打ってブロック壁体を額縁状の枠でかためる。

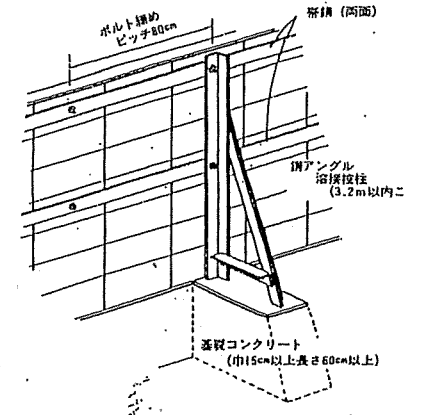
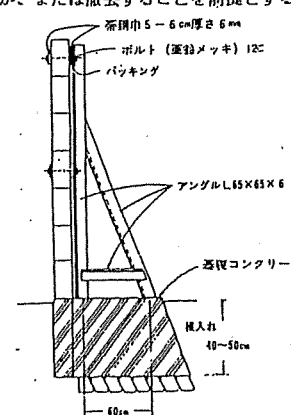


注) ①、②の補強方法は縦筋がないものについても使える。この場合には、控壁間隔を密にする。

③ 鋼柱式補強方法(1)

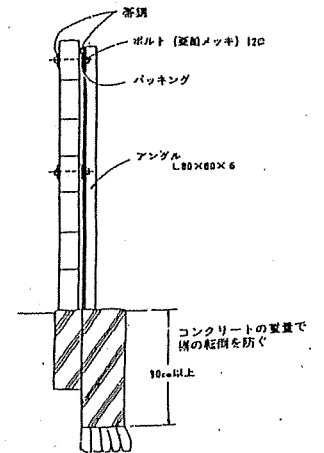
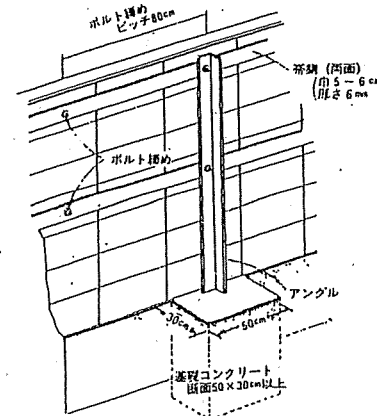
〈対象〉 通常の補強を必要とするが、とりあえず応急的な補強をしたいような場合。

下図のように鋼材で臨時的な補強をする。この場合、鋼材は腐蝕するから、3年程度を限度と考え、本格的な補強するか、または撤去することを前提とする。



④ 鋼柱式補強方法(2)

〈対象〉 ③と同じ条件だが塀の高さが1.2m以下の場合には次のような方法もある。



注) 盛土地盤、段型地盤の場合の応用
低い方の地盤を基準にして基礎の深さをとり、①~④の補強を行う。